前立腺がんの早期診断、治療

泌尿器科

前立腺がんとは

前立腺は 男性の 骨盤の底で、膀胱の下、尿道の周囲にあるクルミ大の臓器です。

前立腺がんは増加傾向にあり、男性のがんの中で最も多いものとなっています。年齢は主に45才以降に発生し、加齢とともに増加します。

早期がんでは症状はみられませんが、進行すると排尿困難、頻尿、血尿などがみられることがあります。

治療成績は 5 年生存率 99%と良好ですが、治療が効きやすくて進行が遅いものばかりではなく、進行が早いものもあります。

前立腺がんを見つけるには

症状が出る前の早期がんのうちに発見するには、血液検査（PSA 検査）が有用です。住民検診に含まれていないので 50 歳以上の方は かかりつけ医などに相談し、検査を受けることをおすすめいたします。

PSA 検査が高値(4 以上)の場合には、泌尿器科の専門医による診察、検査をおすすめいたします。診断のためには、前立腺の一部を針で採取して 顕微鏡で調べる前立腺生検が必要です。

当院では診察、尿検査、超音波検査、MRI検査などで、前立腺肥大症、前立腺炎などの良性疾患をふるいわけた上で 必要な方に前立腺生検をおすすめしています。

針で組織を採取する検査であり、痛みを伴いますので検査時の痛みを和らげるため、下半身の麻酔をして検査を行っています。検査、麻酔に伴う合併症がみられることもありますので3泊4日入院していただいています。

前立腺がんの治療は

早期がんでは根治が可能であり、手術治療、放射線治療が行えます。進行がんには主に内分泌療法、化学療法を行います。それぞれ治療効果、入院の有無、入院期間、通院の頻度、合併症などに差があり長所、短所があります。

早期がんであれば治療の選択肢が多いので、患者さんにあった治療効果がよく生活に支障の少ない治療法を選べます。

当院では、手術治療は下腹部を切開しての前立腺全摘術、放射線療法は体外照射の強度変調放射線治療(IMRT) を行っています。

前立腺全摘術

入院、手術が必要ですが完治の可能性が高い方法です。手術後の合併症で尿失禁がおきることがあります。 多くはロボット支援下の手術をおすすめしており、近隣の施設をご紹介しています。

強度変調放射線治療(IMRT)

外来通院でも治療が可能な方法です。平日に続けて30数回の通院が必要です。まれに膀胱、直腸の症状（頻尿、排尿痛、血尿、便意頻回、下痢、下血） がおきることがあります。

内分泌療法

数週間おきの外来通院で 内服薬、注射薬でも治療が可能です。病状を選んで治療を行った場合は手術と遜色ない治療成績である、といわれています。まれに重症な肝臓、心臓、血管の合併症が起きることがあります。